

# JF日本語関連事業紹介

にほんごかんれんじぎょうしょうかい

## タイの中等教育用日本語教科書『あきこと友だち』の開発

ちゅうとうきょういっくよう にほんごきょうかしょ

とも

ブッサバー・バンチョンマニー (カセサート大学)

だいがく

タイでは、1990年代以降、中等教育後期（日本の高校に相当する）で日本語を教科として取り入れる学校が増え、2004年10月現在、その数は255校に達している。この間、1998年に日本語が大学入試の選択科目となり、2001年には基礎教育カリキュラムが大幅改訂されコミュニケーション能力の養成と学習者中心の教授法を重視したものになるなど、タイの中等教育の日本語科目を取り巻く状況は大きく変わった。このような背景の下、教科書についても、従来使われていた一般（成人）向けの教科書や、日本で作成・出版された教科書ではなく、学習者であるタイの高校生の関心や日本語を使う状況などに合った教科書を求める声が高まった。

### 1. 教科書プロジェクトの概要

2000年2月、タイ教育省と国際交流基金は、中等教育用教科書作成プロジェクトを開始した。制作スケジュールは、1学期毎（前期・後期の2学期制）に1分冊、2003年度前半までで3年間分6分冊（6分冊通して全30課を構成）の試用版セットを作成するというものだった。試用版は2001年から順次、高校で試用され、その結果を反映させて修正が加えられた。市販版は、2004年の各学期の開始に合わせて、3月には1・3・5分冊、10月には2・4・6分冊が刊行された。初版の発行部数は、1分冊5000部、2分冊6000部、3分冊以降は各3000部。



執筆委員はタイ人の高校日本語教員6名と大学日本語教員4名、国際交流基金バンコック日本語センター（当時）専任講師1名、日本人の派遣専門家1名の計12名で構成されていた。このほかに、監修者とアドバイザーとして日本人の専門家3名が関わった。

### 2. 教科書の構成

教科書は、3年間6学期分（学習時間約500時間）で、本冊、教師用指導書、音声テープが各6分冊、基本的に1学期に1分冊を使う設定で構成されている。この他、ワークブックは1年に1分冊ずつの計3分冊となっている。各課の主な構成は①学習目標、②キーセンテンス（新出文型）、③会話、④練習、⑤文法（タイ語による文法説明）、⑥言葉（新出語彙リスト）、⑦漢字、⑧ミニ情報（タイ語での日本文化紹介）の順になっている（表1参照）。内容的には、教育省の基礎教育カリキュラムや大学入試の出題範囲（日本語能力試験3級程度）が盛り込まれるよう配慮した。



P.79

### 3. 教科書の特徴

#### (1) 機能優先の配列

コミュニケーション能力の養成を目指した教科書なので、初級の文法項目に配慮しながらも、各課の学習が終わった後で学習者が日本語でどんなことができるようになるかを「学習目標（機能）」として初めに設定し、作成を進めた（表2参照）。そのため、文型の導入順はそれまで使っていた教科書と異なるところがある。

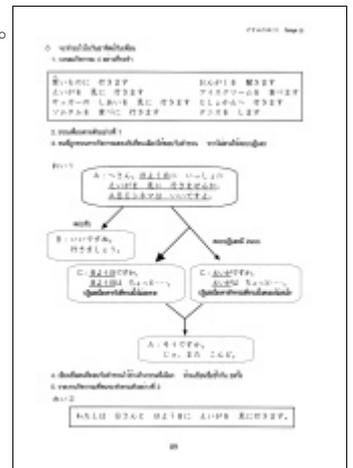
例えば、第3課の学習目標は「（学校などの）場所の案内ができるようになる」ことである。「あります／います」を導入した後に、「（その場所に）だれがいますか／何がありますか」を教える。従来の教科書では、これと同時に「疑問詞」か「だれがいますか／何がありますか」も教えるものが多かった。しかし、タイの高校生が日本人来訪者などに対して校内案内をするという設定では、「だれがいますか」や「何がありますか」はあまり使わない。むしろ、「連休にどこかへ行きましたか」の文例がある第9課（学習目標は「過去に行った活動やその感想を言えるようになる」）で、導入・練習するほうが適当であると考えた。

#### (2) 自由度の高い練習

練習問題には、語彙や文型が正しく使えるようになることを目指す基本練習と、コミュニケーション能力の養成を目指した応用練習の2種類がある。ミニ会話形式の練習では、単に与えられた言葉を置き換えるのではなく、学習者が自由に内容を考えて発話する練習も多く取り入れた。

#### (3) ゲーム性のある練習

楽しい授業活動ができるように、ゲーム形式のものをたくさん取り入れた。例えば、語彙や活



P.89

用を覚えさせる練習には、すごろくやビンゴ、カードを使ったゲームなどがある。

(4) 身近な話題・登場人物

学習者に身近な話題を導入できるように、会話は、主人公を日本からタイに留学してきた高校生(あきこ)にし、彼女をとりまく人々とのタイでの日常生活を本文会話のストーリーにした。また、前述の基礎教育カリキュラムでは、外国語の学習内容に地域社会や他教科との関連付けを求めているため、タイの伝統文化や今日の社会問題、新しい電気製品の使い方なども話題として取り上げた。

(5) 練習のフローチャート

教師が各練習問題の関連性を把握できるように、教師用指導書の各課の冒頭にその課の練習のフローチャートを載せて参考にしてもらうようになっている(表1の練習の欄を参照)。

(6) 教師からのフィードバック

試用版を実際に現場で使ってもらい、そこから出てきた教師の意見を多く取り入れてある。

4. 終わりに

この教科書は現在数多くの学校で使用されているが、今後使用状況を調査したり、教え方の勉強会を開いたりして多くの使用者の意見を取り入れて改訂作業を行い、『あきこと友だち』がタイの日本語教育に貢献できる教科書に育っていくことを期待している。また、試用版を使って学んだ学習者が今年初めて大学に入学した。大学入試との関係やその後の学習継続についての調査も今後の課題となるだろう。

表1. 第8課「休みの日(1)」(第2分冊)

1. 学習目標	休みの日の活動に友達を誘うことができる。
2. キーセンテンス	(1) どこかへ旅行に行きませんか。(2) ええ、行きましょう。(3) ホアヒンの海はきれいですよ。
3. 会話	タイでは8月に「母の日」があり、祝日になっている。その年は連休になったので、留学生のあきこは、クラスの友達に誘われて、ホアヒンの海に出かけることになる。
4. 練習	<p>&lt;基本練習&gt; 練習は番号順に行う。この図は練習同士の関係を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>れんしゅう1</b></p> <p style="text-align: center;">(日付の言い方)</p> <p>試験や祝日、誕生日などがいつか言う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>れんしゅう2</b></p> <p style="text-align: center;">(〈名詞〉は〈形容詞〉)</p> <p>絵を見ながらそのもの特徴についてたずねたり答えたりする。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>れんしゅう4</b></p> <p style="text-align: center;">(〈目的〉に行く)</p> <p>絵を見て、何をしに行くか言う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>れんしゅう5</b></p> <p style="text-align: center;">(〈動詞〉ませんか/〈動詞〉ましょう)</p> <p>絵の活動に誘う。誘いを受けたり断ったりする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>れんしゅう3</b></p> <p style="text-align: center;">(〈名詞〉は〈形容詞〉)</p> <p>4つの絵の中からベアの相手を選んだ絵を質問して当てる。</p> </div> </div> <p>&lt;応用練習&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>れんしゅう6</b></p> <p>与えられた活動の中から好きなものを選んでクラスの友達を誘う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>読解</b></p> <p>様々な活動のポスターを見て、情報を読み取る。また自分で考えた活動のポスターを書く。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>聴解</b></p> <p>誘う会話を聞いて、どんな活動に誘ったか、受けたか断ったかを聞き取る。</p> </div> </div>
5. 文法	(1) 年月日の言い方 (2) 形容詞の述語としての用法 (3) 〈目的〉に〈移動動詞〉 (4) 〈動詞〉ませんか (5) 〈動詞〉ましょう (6) 〈文〉よ (7) 〈疑問詞〉か
6. 言葉	おうさま、こうえん、サンドイッチなど、新出語彙85語
7. 漢字	週、大、切、海、買、新、古、安、高、年、広の11字の読みと書き
8. ミニ情報	日本の祝日について

表2: 第6分冊(高校3年後期使用)の「学習目標」と提出文型例

課とタイトル	学習目標	提出文型例
第27課 「大変な一日」	1. 困ったことについて話せる。 2. 自分の失敗を謝ることができる。	①動詞の受身形(1) ②のに ③原因・理由を表す「て形」 ④〈動詞〉ばよかった
第28課 「祭り」	祭りや習慣、歴史、文化などの情報を伝えることができる。	①動詞の受け身形(2) ②〈動詞(辞書形・た形)〉時 ③(材料)で ④しか+〈動詞〉の否定形
第29課 「子供の時の思い出」	過去の経験について話せる。	①使役
第30課 「送別会」	1. あらたまった場でスピーチができる。 2. 敬語を使った会話を聞いたり文章を読んだりして理解できる。	①敬語 ②接頭語お/ご ③だろう/でしょう